

# 球磨村 おがわ瓦版

令和3年7月10日  
編集発行 宮原 修  
090-9585-8894

## 県南豪雨から一年

### 小川地区内村道より球磨川を望む



渡小川地区より眺めると、家屋の解体が進み見えていなくなった国道219号線や球磨川堤防まで一望できるようになった。一年前の豪雨では小川地区内村道まで濁流で大木やがれきなどが見るうちに押し寄せてきた。まるで東日本大震災の時の津波の映像を見ているようだった。

ライフライン（道路・電気・水道など）は復旧されているが、県道高沢一勝地線は未だ復旧のメドもたっていない。渡小学校は一勝地小学校校地内の仮設校舎、特別養護老人ホーム・千寿園は人吉市下原田町の仮施設で運営。また渡郵便局は球磨村グラウンド仮設住宅の一角に仮設の建設中。流され破壊した相良橋の仮橋も5月21日に開通した。

球磨村役場復興推進課によると、6月末現在家屋の公費・自費解体申請工事364件の内10件が取り下げ、176件とほぼ5割の工事が終わり、今年10月末までに完了予定。また7月1日現在、人口も昨年から比べると70人(4.8%)、世帯数も215世帯(6.1%)と共に減少している。

### 人口と世帯数の変動 (7月1日現在)

	令和2年	令和3年
人口	3,510人	3,295人
世帯数	1,432戸	1,362戸
高齢化率	45.1%	45.9%

## 語り継ぎ希望の灯りを

### 小川班

昨年の豪雨からちょうど一年たった7月4日、小川班（小川豊明班長 25世帯）は、班として目に見える形で後世に残していくことはできないかと竹灯籠を小川班内の村道に沿って設置を行なった。

当日は、午後7時30分以前日に住民で造った竹灯籠を各自持ち寄って、沿道に等間隔に記された位置に家族の人数分を並べ点灯した。各々思いと願いに手を合わせ祈った。



親から子、子から孫へ語り継ぐ

小川班長は「この豪雨災害がどのようなものだったか皆さんの体験を親から子へ、子から孫へと語り継いでいくことで尊い命を守ることができたら」と、また「『竹灯籠』を灯し、希望の灯りとして、命の尊さ、自然災害の怖さ、そして防災意識を皆さんと共に再確認できる場になれば」と話した。

## あわてず 落ち着いて!

### 小川班消火訓練

7月4日、防災活動の一環として、住民約30人が消火訓練を実施した。

消防団の指導で、消火栓の操作や放水の実体験をした。特に、日頃在宅の多い女性も積極的に参加体験していた。



## 小川大王神社夏祭り



小川班では、新型コロナウイルス感染防止のため、昨年に続き大王神社夏祭りを神事のみで開催された。

神事は、6月27日(日)午後1時より住民約30人が集まり神社境内で執り行われた。渡阿蘇神社(一王子神社)の尾方孝至宮司が祝詞・家内安全祈願しお祓いを受け、日當照喜氏子代表、小川豊明班長と老人会、婦人部の各代表が玉串を捧げ祈願した。



## 竹灯籠作り

7月3日



(9)

### \* ツバメの巣立ち 2021 \*

今年もまた、我が家の車庫でツバメが巣立ちました。昨年は豪雨災害でどうだったかは覚えていません。今年は6羽のヒナが無事かえ孵り、親ツバメたちが交互に一生懸命餌を運びヒナに与えていました。車庫に行き来するにも、邪魔にならない様に気を遣いながら毎日見守っていました。時には誤って家の中へ入って来ることもありました。



母ツバメに  
エサをねだるヒナたち

「親ツバメって皆平等にエサを与えているのかな？ヒナたちのアピール度によっても違うのかな？」などと思いながら、見ていました。どんどん成長し巣も手狭になり落ちそうに。お隣の鶴口さん宅には毎年8個の巣を作り、3回位ずつヒナがかえ孵っていたとか、たいへんにぎわっています。まさに「ツバメの鶴口マンション」です。わが家でも2回目に。空☺あれば一戸貸してほしいくらいでした。

今年も皆無事に元気で巣立ってくれてよ

### “願いを込めて七夕飾り”

6月29日、渡保育園の園児約40人と仮設住宅の住民が一緒になって七夕の飾り付けをし、球磨村仮設住宅のみんなの家(4ヵ所)に設置した。



短冊にはたくさんの  
思いや願い事が



渡保育園園児と  
仮設住宅の住民

球磨弁！ 35

わかるかな？

やぜうしか || うっとおしい

なんかかる || 寄りかかる

おじる || 怖がる

こすか || ケチんぼ

なんさま || なにしる

きしやなか || 汚い

くぐろ || 鍋の墨

くちへえじ || 口返事、口応え



♡♡♡ 思いのまま♡♡♡

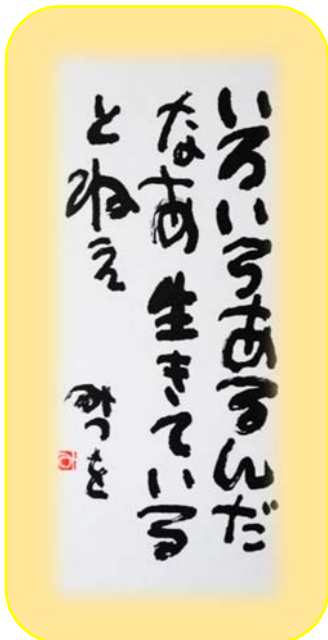
昨年の7月豪雨で、長年住み慣れたわが家は浸水し全壊しました。やはり住む家があると帰る気にもなりません。かといつてこの歳まで持ち家に長年住んで居て、今更賃貸住宅での暮らして終わるのか…。こんな悩みを持つことになるとは夢にも思いませんでした。

自然の力はすごいですよ。何が起きても知らないふりしてまた花が咲き緑が戻ってきます。そしてまた同じように、桜が咲き次はドキドキの梅雨がやってきました。

人間も自然に逆らわず、波に乗りあつちに流されこつちに流されしながら共存してないと、必死に頑張っていたら命を落とすのだろうかとも思います。

今年も何回ヒヤヒヤしながら過ごさないといけないのでしょうか？毎年のごとですけど…。

(A・S)



相田みつを詩集より